サブウーファーシステム

YST-FSW100

ご使用の前に必ずお読み下さい。

ヤマハサブウーファーシステムYST-FSW100をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

保証書別添付

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。

たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。

たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。

たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室、台所、海岸、水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

禁止

本機の通風孔やサブウーファーのポート（下部開口部）等にものを入れたりしない。

火災や感電の原因となります。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ず AC 100 V (50/60 Hz) の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

放熱のため、本機を設置する際には：

・布やテーブルクロスをかけない。
・通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
・あおむけや横倒しには設置しない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

・水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
・サブウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
・接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機（または接続機器）の電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

・機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
・コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグは確実にコンセントに根もとまで差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱･火災の原因となることがあります。

禁止

ポート（下部開口部）には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。

禁止

持ち運ぶときにはポート（下部開口部）に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

ポート（下部開口部）のそばには割れやすいものなどを置かない。

ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン･シンナー･合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

本機に乗ったりしない。

転倒･落下したり破損したりして、けがの原因となることがあります。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、アンプの電源を切り、説明に従って接続してください。

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

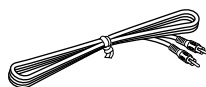
はじめに

特長

- 豊かな重低音を再生する、アドバンスド･ヤマハアクティブ･サーボ･テクノロジー II 搭載
- 半円ポートの搭載により、インテリアと調和する薄型デザインを実現

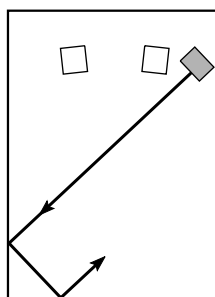
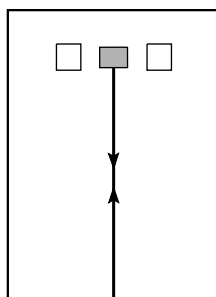
付属品

付属品を確認してください。

サブウーファーケーブル (5 m x 1)

システム接続ケーブル (5 m x 1)

サブウーファーの設置

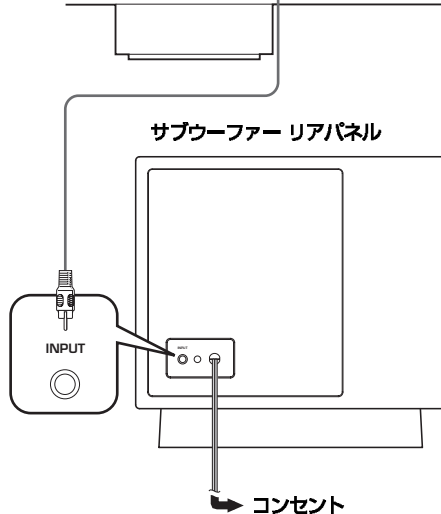
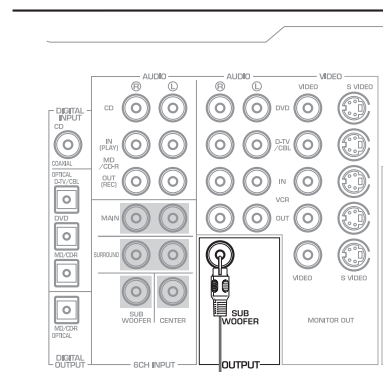
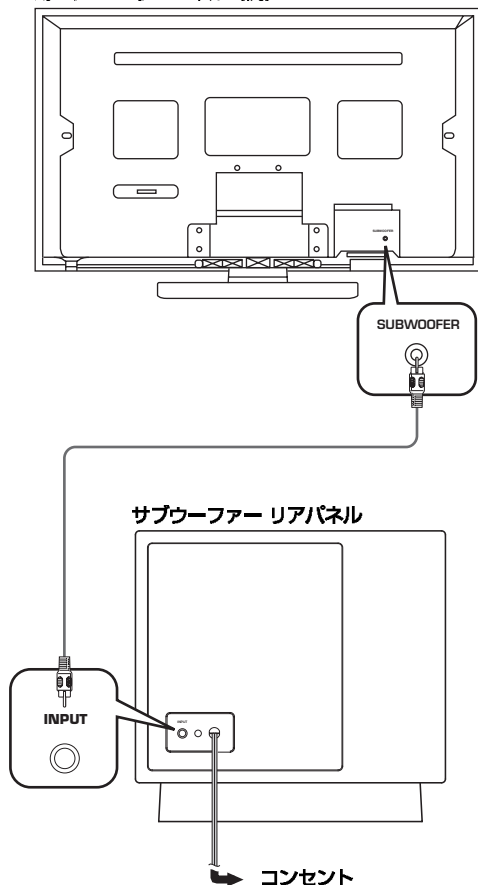
重低音域の波長は無指向性に近く方向感覚が薄いため、サブウーファーの設置位置は他のスピーカーほど重要ではありませんが、図 A のように左右フロントスピーカーのどちらか外側に設置すると良好な効果が得られます。

以下の図 B のように正面に向けて設置した場合、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい、良い効果が得られないことがあります。これは部屋のなかにできる定在波の影響によるものです。これを避けるため、サブウーファーは図 A のように設置されることをお勧めします。

（■：サブウーファー、□：フロントスピーカー）

接続のしかた

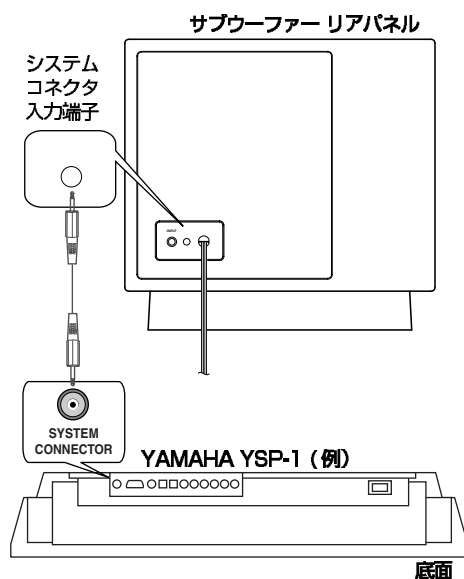
正しい接続のために

- 接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントからはずしたうえでおこなってください。
- 接続する機器（アンプ、レシーバー、テレビなど）によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

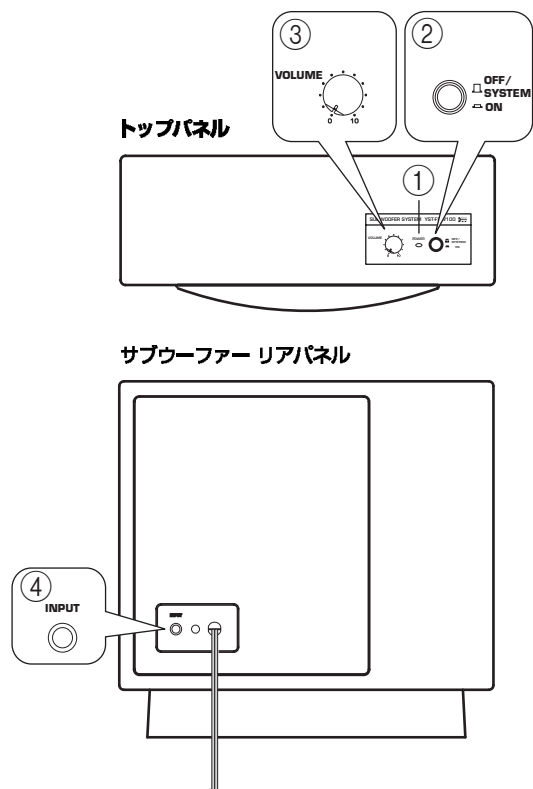
付属のサブウーファーケーブルを使用して、本機背面の INPUT 端子を AV アンプまたはテレビのサブウーファー出力端子に接続します。
アンプまたはテレビにサブウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

AV アンプ（例）

● システム接続

本機にはシステム接続端子が備わっています。付属のシステムケーブルで**本機**と**システム接続端子があるヤマハ製機器**を接続すると、接続した機器の電源スイッチにより、本機の電源モード (ON/ OFF) を切り替えることができます。この際、本機の Power スイッチは OFF の状態でご使用ください。OFF のポジションでも、電源を入れることができます。

注意 :

*本機の Power スイッチが ON の場合、システム接続を行っていても電源モードは連動しません。本機の電源モードは常に ON の状態となります。

電源コードの接続

電源コードの接続は、本機とその他の機器の接続が全て完了してからおこなってください。
電源コードは AC100V の家庭用コンセントに接続してください。

サブウーファーの使い方

①POWER インジケーター

Power スイッチをに ON すると緑色に点灯します。システム接続をしているときは、接続した機器の Power スイッチを入れることで、点灯します。

②Power スイッチ

Power スイッチを ON にすると、電源が入ります。Power スイッチをもう一度押して OFF/SYSTEM にすると、電源が切れます。システム接続をしているときは OFF/SYSTEM の位置でご使用ください。(システム接続　9 ページ参照。)

③VOLUME（ボリューム）

本機の音量を調節するツマミです。
右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

④INPUT 端子

接続する機器（アンプ、レシーバー、テレビなど）のサブウーファー出力端子またはライン出力端子（PRE OUT など）からの信号を入力する端子です。

音量バランスの調整

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー（フロント）と本機の音が自然につながるように音量バランスを調整する必要があります。

1. 本機の音量を最小にします。
2. アンプおよび各機器の電源を入れます。
3. 本機のPowerスイッチを押して本機の電源を入れます。システム接続をしているときは、接続した機器の電源スイッチを入れてください。
4. 低音を含んでいるソースを再生します。
5. フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。通常お聴きになる音量にします。（トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。）
6. 本機の音量（ボリューム）を徐々に上げていき、フロントスピーカーとの音量バランスをとります。本機がないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

メモ

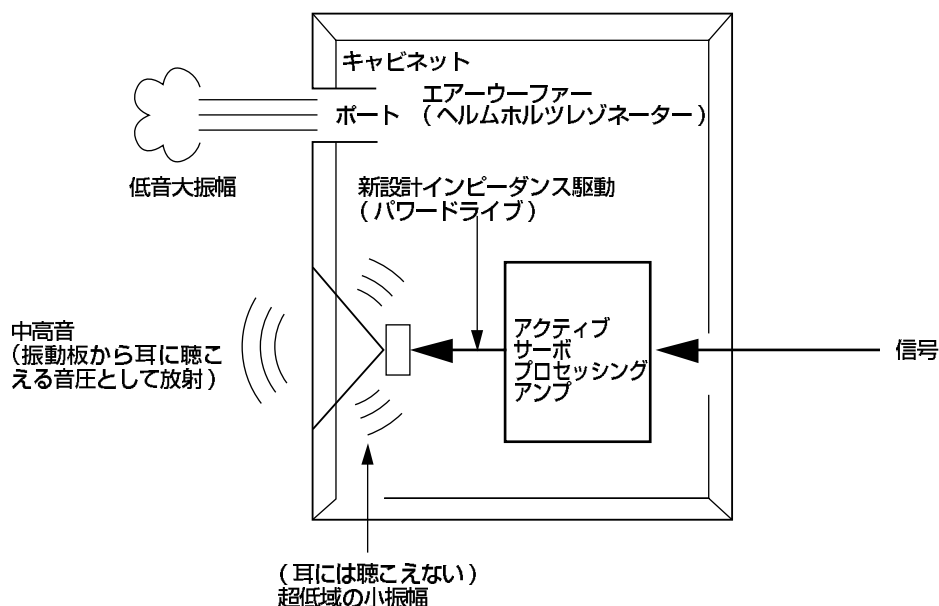
マルチチャンネルのホームシアターシステムでは、本機の VOLUME ツマミを中程度のレベルに設定するといいでしょう。

Advanced Yamaha Active Servo Technology II

(アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー)

1988年、ヤマハは独自のYST (Yamaha Active Servo Technology) 方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーを電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発したAdvanced YST IIは、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、スピーカーユニットの共振点に合わせ、従来の負性駆動と併せて定電流駆動を適用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください．そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外の異常が認められる場合は、サブウーファーの Power スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすれば OK です
Power スイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	Power スイッチを切ってから、電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
	サブウーファーケーブルの接続が悪い。	サブウーファーケーブルをしっかり接続してください。
音が出ない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	本機のボリュームが最小（0）になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	再生機器からの入力信号が小さすぎる。	再生機器の音量を上げてください。
	再生機器のサブウーファー出力端子から信号が出ていない。	再生機器のスピーカーモードの設定を確認してください。

仕様

型式 ....アドバンスド ヤマハ アクティブ
サーボ テクノジーII 方式

スピーカーユニット.............. 16 cm コーンタイプ , 防磁型

アンプ出力.. 75 W (5 Ω,10 %)

ダイナミックパワー...130 W,5 Ω

入力インピーダンス.. 12 kΩ

再生周波数帯域 .... 30 Hz ～ 200 Hz

入力感度.................................... 70 mV(50 Hz,75 W/5 Ω)

電源 / 電圧..AC 100 V、50/60 Hz

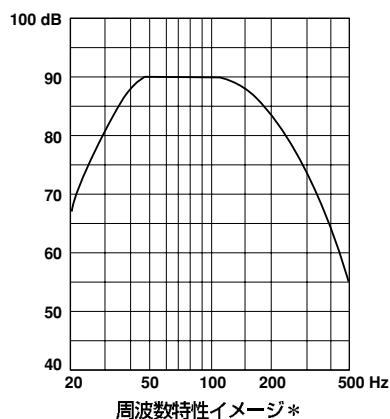
消費電力...45 W

寸法（幅×高さ×奥行き）..........400 × 375 × 157 mm

質量..9 kg

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

周波数特性図

周波数特性イメージ＊

＊実際の周波特性を厳密に表したものではありません。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第 3-2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 FAX (011)512-6109
仙台	〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F FAX (022)236-0007
首都圏	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX (03)5762-2125
浜松	〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 FAX (053)462-9244
名古屋	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F FAX (052)652-0043
大阪	〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F FAX (06)6330-5535
四国	〒760-0029 高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内 FAX (087)822-7160
九州	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1